

2019年度

文化財をデリバリー

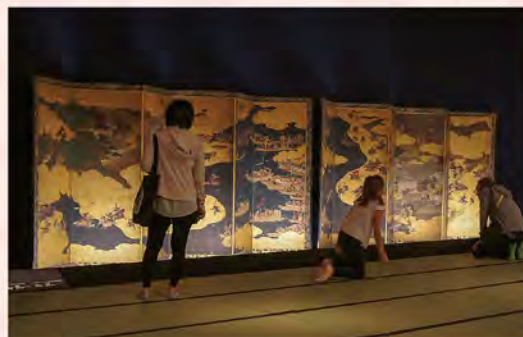


# ぶんかつアウトリーチプログラム

独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター(ぶんかつ)による「ぶんかつアウトリーチプログラム」は、全国各地の小学校・中学校・高等学校の児童・生徒のみなさんに文化財に親しんでいただくためのプログラムです。高精細画像と職人の伝統的な手仕事による精巧な複製品を使って、いつもの教室で国宝や重要文化財、海外の美術館が所蔵する名宝と向き合うことができます。

図画工作・美術の授業はもちろん、古文、総合的な学習の時間、総合的な探求の時間などでの活用を想定しています。プログラム実施に必要な複製品を含んだキット一式の貸出しも行いますので、先生方ご自身でプログラムを実施することも可能です。

ホンモノと見分けるのが難しいくらいの高精細複製品を使用！



## 実施方法① 複製品を含むキット貸出と講師派遣（要事前打ち合わせ）

講師は文化財活用センター、もしくは東京国立博物館の職員が担当いたします。

## 実施方法② 複製品を含むキット貸出

先生方にプログラムを行っていただきます。講師派遣はありません。

**料 金** 原則として無料（ただし、筆記用具、必要な画材などについては学校でご用意ください）

**申し込み方法** 事前申込制（先着順）。2019年度の受付は2月12日（火）から開始します。  
申し込み方法や内容の詳細については文化財活用センターWEBサイトをご覧ください。  
<https://bkc.nich.go.jp/>

**お問い合わせ** 独立行政法人国立文化財機構 文化財活用センター 企画担当  
TEL：03-5834-2856（平日9:00～17:00） FAX：03-5834-2857  
E-mail：bkc@nich.go.jp

\*文化財活用センター（ぶんかつ）は、すべての人びとに、文化財に親しむ機会を提供します。



こく ほう しょうりん す びょう ぶ は せ がわ とう はく  
**国宝《松林図屏風》 長谷川等伯筆 の複製を使ったプログラム**



**プログラム①**

**自分だけの松林図屏風をつくってみよう!**

- 対象** 小学校低学年から
- 人数** 1クラス単位で実施 (最大人数40名)
- 実施時間** 約45分
- 使用可能科目** 図画工作、総合的な学習の時間など
- 実施場所条件** 作業机があり、屏風が設置できるスペース (7×3メートル程度) があること



国宝《松林図屏風》(東京国立博物館蔵)の複製を使用した体験型のプログラムです。博物館のガラスケースの中の展示とは違い、自分と同じ高さの床に置いた屏風に近づいて見るすることができます。色やかたち、配置に注目してじっくり見たあとは、屏風型のワークシートに松を描いたり、配置を工夫しながら松の木のスタンプを押したりと、自分だけの松林図屏風を自由につくります。ものづくりを通して文化財を身近に感じることを目的としています。

**プログラム②**

**屏風体験! 松林図屏風をプロデュース**

- 対象** 小学校4年生以上
- 人数** 1クラス単位で実施 (最大人数40名)
- 実施時間** 約45~50分
- 使用可能科目** 図画工作、美術、総合的な学習の時間など
- 実施場所条件** 屏風が設置できるスペース (7×7メートル程度) があること。部屋を暗くできる場合は、照明による演出も可能です



国宝《松林図屏風》の複製を使用した対話形式のプログラムです。屏風に近づいて鑑賞し、作品の世界をより身近に感じられる置き方や、魅力を引き出す置き方をグループで話し合い、提案してもらいます。屏風の見せ方を考える体験を通して、文化財に親しむことを目的としています。

へい け もの が たり いち たに や し ま が つ せん す びょう ぶ  
**《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》の複製を使ったプログラム**



©The Trustees of the British Museum(2017).

**プログラム③**

**絵で読む平家物語**

- 対象** 中学2年生以上
- 人数** 1クラス単位で実施 (最大人数40名)
- 実施時間** 約50分
- 使用可能科目** 国語、古文、古典など
- 実施場所条件** 屏風が設置できるスペース (7×3メートル程度) があること  
部屋を暗くできることが望ましい

「平家物語」をテーマとした《平家物語 一の谷・屋島合戦図屏風》(イギリス・大英博物館蔵)の複製を使用するプログラムです。右(隻)には「敦盛の最期」など、「一の谷合戦」にまつわる21の逸話が、左(隻)には「那須与一の扇的」など、「屋島合戦」にまつわる8つの逸話が描かれています。どちらも教科書でもなじみの深い場面です。絵画を見ながら原文(および現代語訳)を読むことによって、自分たちの感性を通して古典を生き生きと学びつつ、文化財に親しむことを目的としています。

※綴プロジェクト(主催:京都文化協会/共催:キャノン株式会社)で制作された高精細複製品を使用します。  
 ※本プログラムはキャノン株式会社と国立文化財機構 文化財活用センターによる「高精細複製品を用いた日本の文化財のための共同研究プロジェクト」の一環として実施しています。